

大阪は‘まち’がほんまにおもしろい

# これぞ浪華八百八橋！中之島名橋コレクション

## ～過去と現在を繋ぐ歴史の架け橋たち～

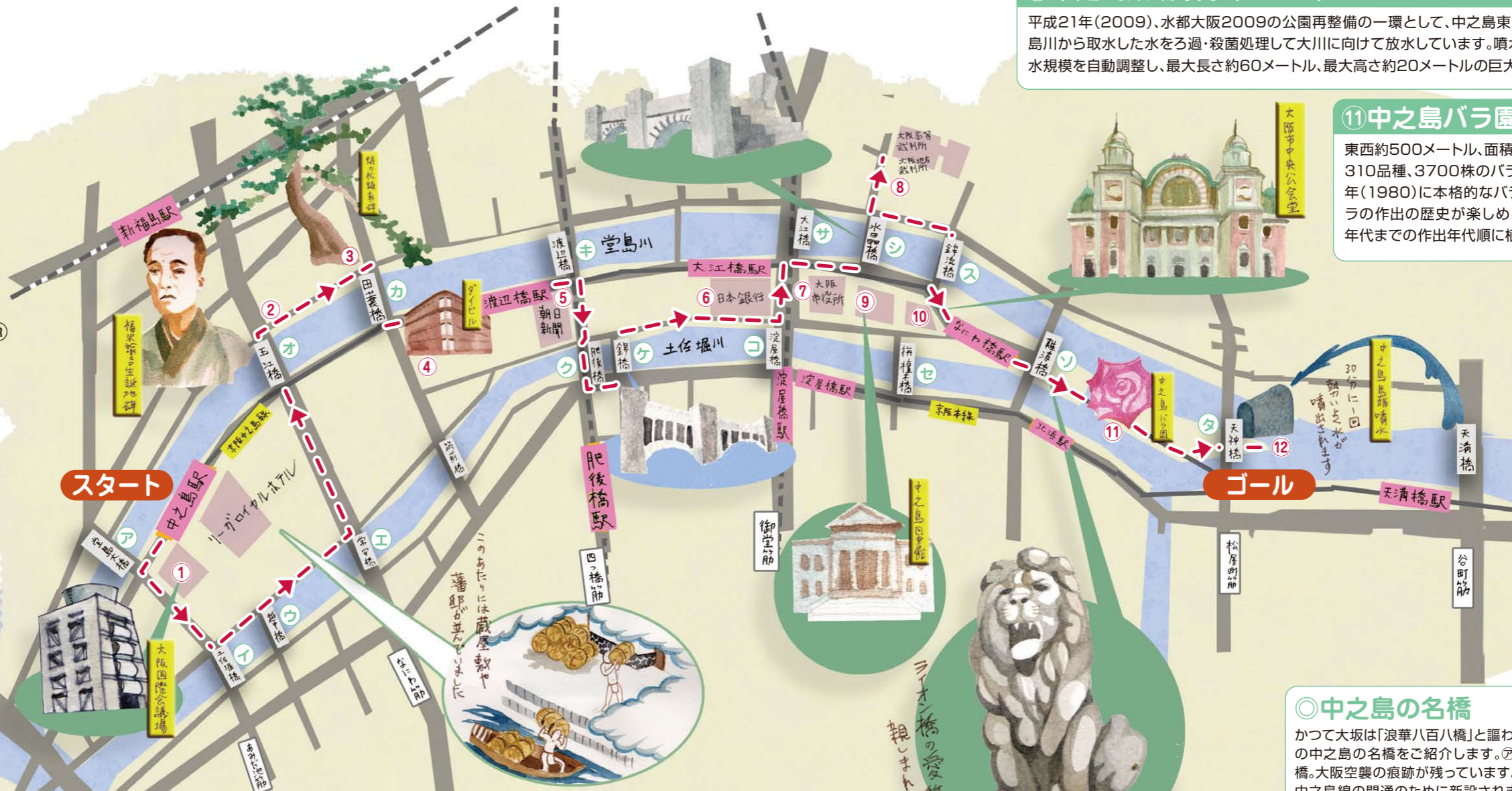
かつての大坂は浪華八百八橋と歌われたほどの橋の名所でしたが、現在の中之島にも素晴らしい名橋が数多く架かっています。中之島の橋の物語、ドラマを巡りながら、水の都・大阪の歴史を探っていきましょう！



**①大阪国際会議場**  
G8サミット(主要国首脳会議)誘致のために大阪国際貿易センター跡地に大阪府が建設しました。黒川紀章の設計で地上13階、地下3階、高さ104.51メートルです。メインホールは最大2754名収容可能で、隣のリーガロイヤルホテルと1階連絡通路で繋がっています。

**②福沢諭吉生誕地碑**  
福沢諭吉は天保5年(1835)、堂島浜にあった中津藩蔵屋敷で下級藩士の福澤百助・於順の次男として生まれました。諭吉という名は父・百助が「上諭条例」(清の乾隆帝治世下の法令を記録した書)を手に入れた夜に生まれたことに因みます。百助は大坂商人を相手に藩の借財を扱う職で、儒学者でしたが、身分が低いため名をなすことができず、諭吉が1歳6ヶ月のときに世を去りました。その後、諭吉は母と一緒に中津に戻って勉学に励み、安政元年(1854)に長崎で蘭学を学び、安政2年(1855)には大坂・適塾に入門。2年後には塾頭を勤めるまでになりました。のちに藩の招きで江戸で蘭学塾を開き、万延元年(1860)には咸臨丸の艦長・木村摂津守の従者として渡米。欧米諸国を歴訪して「西洋事情」「学問のすゝめ」などを著述しました。また慶応4年(1868)には蘭学塾を芝新銭座に移転し、年号をとって「慶應義塾」と改名して、これが慶應義塾大学の前身です。明治維新以後は洋学普及を主張しながら、明治13年(1880)に専修学校(現・専修大学)創設に協力。明治15年(1882)には日刊新聞「時事新報」を創刊したりと教育者・啓蒙家として活動。明治34年(1901)に脳出血で死去しました。

**③蛸の松頭彰碑**  
このあたりは江戸時代には諸国の大名の蔵屋敷が立ち並んだ界隈です。慶長年間(1596～1615)に広島藩主・福島政則が植えたとされる黒松は素晴らしく、枝ぶりが蛸の泳ぐ姿に似ていたことから「蛸の松」と言われて摂津名所にもなりました。残念ながら明治の後半に枯死し、その切り株は大阪教育大学に保存されています。



**④ダイビル**  
大正14年(1925)竣工。渡辺節の設計で、地上8階、地下1階、塔屋1階のネオ・ロマネスク様式のビルです。大阪を代表する近代建築のオフィスビルでしたが、老朽化のため立て替えられることになり、現在解体工事中です。新ビルはダイビル本館の外観復元や内部デザインを取り入れて、イメージ再現を図るとのことで、平成25年(2013)春竣工予定です。

**⑤朝日新聞ビル**  
昭和43年(1968)年竣工。高度経済成長の真っ只中、発行部数の急増にともない、建物・設備とも手狭になってきたため、新聞の発刊を続けながら旧社屋を解体して改築しました。ビルの中を阪神高速道路が貫通する当時としては珍しい構造となっています。

**⑥日本銀行大阪支店**  
江戸時代には島原藩蔵屋敷があった場所ですが、明治4年(1871)に郵便制度発足に伴って、郵便役所(大阪・京都・東京)が置かれました。その後、明治36年(1903)に辰野金吾らの設計による日本銀行大阪支店(旧館)が建てられました。近畿2府4県の日銀業務を統括しています。

**⑦大阪市役所**  
旧・中之島庁舎は大正10年(1921)完成で、鉄筋5階建て、中央にホール、正面玄関に4本の円柱が立ち、ルネッサンス風の塔はまさに「大坂」の象徴でした。しかし昭和57年(1982)に、新庁舎建設のため惜しまれながら取り壊されました。半分ずつの建て替えなので、その痕跡が屋根などに残っています。1階には「大阪市廳」と書かれた旧表札が展示されています。

**⑧佐賀藩蔵屋敷舟入跡復元石垣遺構(大阪高裁、大阪地裁内)**  
江戸時代、各藩は年貢米の換金や特産物の売買のため、水運の便のよい中之島周辺に蔵屋敷をこぞ建てました。このあたりは佐賀鍋島藩の蔵屋敷で、その名に由来して鍋島浜と呼ばれていました。平成2年(1990)、大阪高等裁判所構内で地下駐車場工事の際に実施された発掘調査で、蔵屋敷遺構の一部が発見され、長大な船溜・屋形・米蔵などの並ぶ様子が確認されました。

**⑨中之島図書館**  
明治37年(1904)、住友家第15代住友吉左衛門友純(ともいと)の寄付によって「大阪図書館」として開館しました。設計は住友臨時建築部の技師長・野口孫市、技師：日高胖が担当。外観はルネッサンス様式、内部はバロック様式を基本としてデザインされています。

**⑫中之島東端噴水(ゴール)**  
平成21年(2009)、水都大阪2009の公園再整備の一環として、中之島東端(剣先公園)に噴水を設置。堂島川から取水した水をろ過・殺菌処理して大川に向けて放水しています。噴水は風による影響を考慮して噴水規模を自動調整し、最大長さ約60メートル、最大高さ約20メートルの巨大なアーチを描きます。

**⑪中之島バラ園**  
東西約500メートル、面積約1.3ヘクタールにわたって、約310品種、3700株のバラが植えられています。昭和55年(1980)に本格的なバラ園としてオープンしました。バラの作出の歴史が楽しめるように、1800年代～2000年代までの作出年代順に植栽されています。

**⑩大阪市中央公会堂**  
明治44年(1911)、株取引で巨額の富を得た岩本栄之助が当時の金額で100万円を寄付し、公会堂建設が始まりました。設計は指名設計競技で行われ、当時29歳の岡田信一郎が当選しました。竣工は大正7年(1918)。しかし岩本栄之助は第一次大戦による相場の変動で大きな損失を出し、公会堂の完成を見ないまま大正5年(1916)に自宅の茶室でピストル自殺しました。

**◎中之島の名橋**  
かつて大坂は「浪華八百八橋」と謳われたほどの橋の名所でした。現在の中之島の名橋をご紹介します。⑦堂島大橋…昭和2年(1927)架橋。大阪空襲の痕跡が残っています。④土佐堀橋…大正期に市電桜川中之島線の開通のために新設されました。⑤越中橋…北詰に肥後・細川越中守の蔵屋敷がありました。⑩常安橋…当初は田辺屋敷。元禄期に淀屋常安にちなんで常安橋と改名しました。④玉江橋…元禄期に架橋。堀江橋と呼ばれていましたが堀江から珠玉が見つかった玉江伝説により改名。北詰に肥後藩や中津藩の蔵屋敷がありました。⑨田養橋…多くの歌人に歌われた難波八十島のひとつ。田養島に因みます。⑧渡辺橋…河村瑞賢の淀川改修工事で誕生。この界隈は江戸時代は米市場として栄えました。②肥後橋…北詰に肥後藩蔵屋敷がありました。③錦橋…土佐堀川可動堰の橋部分を錦橋と呼びます。錦絵ギャラリーとなっています。③淀屋橋…豪商・淀屋が中之島に米市場を開いた時に架橋と言われています。⑩大江橋…元禄期、堂島開港に伴って架橋。御堂筋拡幅時に淀屋橋とともに橋梁デザイン的一般公募によって掛け替えられました。②水晶橋…本来は堂島川可動堰という河川浄化を目的に建設されたゲートでした。橋名は照明灯が水面に移る様子が水晶の輝きに似ていることから。③銚流橋…天神祭の銚流神事に因みます。現在も橋の北詰で神事が行われます。③榎木橋…橋筋に榎木ノ木の太木があったのが橋名の由来です。②難波橋…奈良時代に行基が架けたという説があります。現在の橋は大正期の市電事業により架橋。橋の四隅に阿・吽のライオン像が鎮座しています。浪華三大橋のひとつ。②天神橋…文禄3年(1594)架橋という記録があります。天満天神社が管理するので天神橋と呼ばれるようになりました。浪華三大橋のひとつ。

大阪あそ歩のコースは約2~3km、2~3時間程度を基準として作成されています。